

兵庫県防衛協会 顧問

平成27年新春メッセージ ～安全安心と元気の創造～

新年あけましておめでとうございます。

今年は、阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えます。未曾有の災害から得た経験と教訓を発信し続けるとともに、復興を成し遂げてきた兵庫の力を、未来に向かって、一層力強く発揮する好機の年としようではありませんか。

昨年末、国政の新たな体制が固まりました。人口減少の克服や東京一極集中の是正など地方創生の動きの本格化に向けて、今こそ、地方が主導する国づくりを進めるべき時です。兵庫の多様性を生かし、個性ある地域の発展に全力を尽くしていきましょう。

第一は、安全安心の確保

地震、津波対策のほか、昨年8月の豪雨災害を踏まえた風水害への備えを強化します。また、2025年問題を見据えた福祉・介護・医療の充実や、子どもや高齢者などの課題に対応して、地域社会での暮らしの安心を確保します。

第二は、活力ある地域経済

グローバル市場でも存在感を示すオンリーワン企業の育成や、産業としての農業の振興、ブランド化を進めます。子育て環境の充実とあわせ、女性、若者、高齢者、障害者など多様な人材の社会参加を促し、人口減少社会の活性化をめざします。

第三は、地域の元気の創造

山陰海岸ジオパークなど多彩な地域資源を活用した広域観光圏の形成や、交通ネットワーク等社会基盤の整備、淡路花博2015花みどりフェアの開催などにより、地域活性化と内外との交流拡大を図ります。

ふるさとへの愛着と20年間の復興の歩みを基盤に、柔軟な発想と地域主導の行動で直面する課題に挑み、兵庫の新時代を切り拓いていきましょう。

地震乗り越え 未来をめざす ふるさと兵庫 新しい創造



兵庫県知事 井戸敏三



- ① 年頭の辞
- ② 中部方面隊創隊54周年記念行事参加
- ③ 近畿ブロック防衛協会青年部会体験入隊
- ④ 兵庫地方協力本部だより

発行 兵庫県防衛協会 電話 078-261-9780 印刷 印刷ハルビシネスラボ

謹賀新年

輝かしい新春を迎え、謹んで皆様のご清福をおよこび申し上げます。
本年も引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。

兵庫県防衛協会 会長



川崎重工工業株式会社 相談役 大橋 忠晴

年頭の辞

かに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素は当協会の活動に対しご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は尖閣諸島をめぐる領土・領海問題を含む周辺海空域での活動の拡大、周辺国の軍事力強化に伴う軍事活動等の活発化で予測される問題など、引き続き冷静かつ厳格な対応が求められています。

また、国内においては、自然災害などの大規模災害による災害派遣を始め、近い将来発生が予測される南海トラフ巨大地震への対応等、様々な課題が山積みとなっております。

このような状況下において、自衛隊に対する国民の期待と信頼は日々一段と高まってきております。国民の期待が強く寄せられている今こそ我々兵庫県防衛協会は、県民に対する防衛思想の普及・高揚に尽力し、自衛隊の良き理解者として自衛隊に対する支援・協力活動を一層充実させていきたいと考えます。

併せて、隊員の皆さんが我が国の安全を守るという重大な責務を全うできる環境作りを積極的に行って参らなければならぬと痛感している次第であります。最後に当会の益々の発展と、皆様のご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。会員並びに本誌読者の皆さまにおかれましては、健やかに

防衛省自衛隊



自衛隊兵庫地方協力本部長 下 芳孝

新春の「挨拶」

とともに、防衛省・自衛隊の活動に対し深いご理解の下、各種自衛隊行事等への協賛、並びに自衛官の再雇用等にご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

私が兵庫地方協力本部長の職に就いてから2度目の新年を迎えますが、これもひとえに皆様のご協力のお陰と深く感謝しております。

今後とも、皆さまのご期待に応えられるよう尽力していく所存でありますので、引き続きご支援ご厚情を賜りますようお願い致します。

さて、わが国を取り巻く安全保障環境は、依然として領土問題や統一問題をはじめとする不透明・不確実な要素が残されており、領土や主権・経済権益などをめぐる、純然たる平時でも有事でもない、いわゆるグレーゾーンの事態が増加する傾向にあります。更には、周辺国による軍事力の近代化・強化や軍事活動などの活発化が顕著にみられ不安定要因はより一層深刻化しております。

また、近い将来発生すると予測されている南海トラフ巨大地震への対応等、自然災害においても予断を許さない状況であります。このような厳しい情勢において、私ども自衛隊は日々緊迫感を持ち、各種事態に適切に対応し、国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くために、総合的な防衛体制を構築し各種事態の抑止に努め事態発生に際しては、その推移に応じてシームレスに対応できるよう積極的に取り組んでいます。

我々兵庫地本としても、皆様の大きな期待を受けわが国の平和と独立を守るという重要な役割を担い得る有為な人材を努めて多く確保するため、「わ」をもって兵庫地本一丸となり日々誠実に業務を遂行していく所存であります。最後に年々新しい年が皆様にとりまして充実した素晴らしい年となりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

兵庫防衛協会の皆様、謹んで新春のお喜びを申し上げます。平素より我が国の防衛に対し、高い関心を持ち、広く県民の皆様に対する防衛思想の普及等に「尽力頂く

中部方面隊創隊54周年記念行事参加

10月12日、兵庫県防衛協会は陸上自衛隊伊丹駐屯地(伊丹市)において実施された「中部方面隊創隊54周年記念行事」を共催した。

記念行事は、感謝状の贈呈式や記念式典、訓練展示(模擬戦)などが行われた。

感謝状の贈呈式では、中部方面総監の山下陸将より、自衛隊への協力により隊務運営に大きく貢献したとし、兵庫県防衛協会事務局長の中島照弘氏に感謝状が贈られた。

記念式典では、伊丹駐屯地に所在する部隊の中から約900名の隊員が参加し、指揮官の号令のもと、一糸乱れぬ統制の取れた姿を披露した。

訓練展示では、陸上自衛隊の装備品が数多く登場する中、野砲FH-70や74式戦車などが観客の目を引いていた。

訓練は実戦さながらに行われ、自衛隊員のきびきびした動作を見て練度の高さを感じることで、その後、祝賀会が行われ、防衛協会のほか、防衛基盤を支える様々な協力団体等の会長や役員が出席し、自衛隊の主要幹部らと日本の防衛について語り合うなど懇親を深めた。

祝賀会も終盤に差し掛かり、協力団体を代表して宮内常任理事が「万歳三唱」を行い兵庫県防衛協会の存在感を大いに示した。祝賀会は終始、穏やかな雰囲気の中進行し、盛会の内に滞りなく終了した。



協力団体を代表し、万歳三唱を行う宮内常任理事

兵庫地本記念行事

11月16日、神戸北野ブラザ六甲荘において、自衛隊兵庫地方協力本部創立58周年記念行事が開催された。

記念行事に先立ち自衛隊兵庫地方協力本部長から兵庫地本の隊務運営に貢献した方に対し感謝状の贈呈が行われた。

兵庫県防衛協会からは、前尼崎支部森本支部長と青年部会小島会長が受賞した。

その後、祝賀会食が開催され、兵庫地方協力本部本部長より、防衛省自衛隊への協力に対する謝辞があった。

続いて協力団体を代表して兵庫県自衛隊父兄会の会長が挨拶の後、兵庫県防衛協会青年部会の小島会長が「乾杯」の挨拶を行った。

挨拶では、地本の創立記念開催のお祝いを述べた後、昨今の日本を取り巻く情勢について語り、「我々、協力者が自衛隊の良き理解者となり、自衛隊を支えるため、力を合わせましょう。」と呼びかけた。最後に、「万歳三唱」

を隊友会会長が行い、祝賀会はお開きとなった。



乾杯の挨拶を行う青年部会小島会長

富士総火演研修

8月23日に兵庫県防衛協会は、「平成26年度富士総合火力演習研修」を行った。

研修には、兵庫県防衛協会尼崎支部長の吉田氏を始め、青年部会会長の小島氏など総勢31名の会員が参加した。

演習当日、東富士演習場は朝から厚い雲に覆われ、演習開始10分前から雨が降り始めた。更に弾着地域に霧が流れ込み、演習が一時中止になるなど、演習続行が危ぶまれた。

見学を訪れていた他の団体客等の中には、「天候の回復の見込みなし」「演習実施見合わせ」の

放送を聴き、帰路につく者も多くいた。そのような中、兵庫県防衛協会会員は霧が晴れるのを信じ雨の中で演習が再開されることを辛抱強く待った。

多くの方が帰路につき中、会員にも諦めムードが濃くなってきたそのとき、次第に標的や弾着地域が見えはじめ「これはもはや！」と思い始めたころ、演習再開のアナウンスが流れ再び演習が始まった。再開後すぐに、74戦車が登場し射撃を開始、ビリッとした音に伝わる振動と大轟音に会員は驚嘆し、今まで会場を支配していた重い雰囲気が一瞬で吹き飛ばした。

その後、AH-64D(通称アパッチ)など最新鋭の装備品などが登場するなど演習は順調に進行し、F-2戦闘機やP-3C哨戒機の飛行は中止されたものの演習の殆どを研修することができた。

研修を終え会員からは、「この悪天候の中でも当たり前の様に訓練している隊員の姿をみて、日本の自衛隊の強さを感じることができました。」という意見を数多く聞くことができた。

小松航空祭研修

9月20日に兵庫県防衛協会は航空自衛隊小松基地航空祭を研修した。

到着後、恒例の記念撮影を済ませ、会員は我先にと展示してある航空機や、ブルーインパルスを撮影するため思い思いの場所へ向かった。

ブルーインパルスが飛行すると一糸乱れぬハイレベルな演技に観客からは大歓声があがり、演技終了時にはパイロット達に向け溢れんばかりの拍手が送られた。

約3時間という短い研修時間ではあったが、参加者からは「かつこよかった、ブルーインパルスが見れて感無量です。」という声がかかれた。



近畿ブロック防衛協会青年部会 善通寺駐屯地体験入隊

兵庫県防衛協会青年部会は、10月28日、29日に善通寺駐屯地(香川県)で行われた「近畿ブロック防衛協会青年部会体験入隊」に青年部会小島会長以下8名が参加した。

体験入隊には、近畿2府4県(京都、大阪、兵庫、滋賀、和歌山、奈良)からそれぞれ7名、10名が参加し、多くの会員が集まった。体験入隊は、2日間行われ、1日目は基本訓練や講話など、2日目は国分台演習場において各府県対抗の障害走競技会が行われた。



低鉄条網を匍匐前進する兵庫青年部



列を組んでゴールする兵庫青年部

障害走は各府県からそれぞれ1チーム7名が選ばれ、各チームのタイムを競うもので、兵庫青年部会員は作戦会議を開くなど、障害走優勝への気合を各チームに見せつけた。障害走当日は晴天に恵まれコンディションは最高! 兵庫青年部会会員の士気は最高潮に達した。コースは約5キロと長く、低鉄網一本橋、壁越えなどの障害に加え演習場内特有のアップダウンと山を切り開いただけの斜面を走るなど非常に険しい行程となっており、

自衛官でも苦戦を強いられている。スタート直後、兵庫チームは最後尾であったが徐々に追い上げを開始し、各難所ごとチーム一丸となり助け合いながら乗り越え、気がつけば先頭チームに追いついていた。最後は、昨日訓練した隊列を組み「1, 1, 1, 2」と声を出してゴールし、結果は第2位だった。体験入隊を終え会員からは、「改めて自衛隊の皆さんの地道な努力を感じることができました。兵庫県防衛協会青年部会も負けられませんね。」と述べるなど、充実した研修となった。

姫路港艦艇見学

7月21日に行われた姫路港フェスティバルに兵庫県防衛協会青年部会女性会員6名が参加し、兵庫地本の広報ブースを支援した。

姫路港フェスティバルは、毎年、海の日に合わせて行われており、海のイベントとして多くの来場者で賑わっている。今年も、海上自衛隊の練習艦「しまゆき」「しらゆき」の2隻が寄港し、その内1隻を見学用として一般公開した。また、港には、陸上自衛隊の装備品「FH-70」「装甲車」「偵察用バイク」が展示され、来場者の目を引いた。

広報ブースでは、「アンケートコーナー」や「自衛隊クイズ」「ミニ制服着用コーナー」などを行い、子供をターゲットに自衛隊PRに力を入れた。特に、「ミニ制服着用コーナー」では、兵庫県防衛協会のはつぴを着た青年部会女性会員が着せ替えを担当し

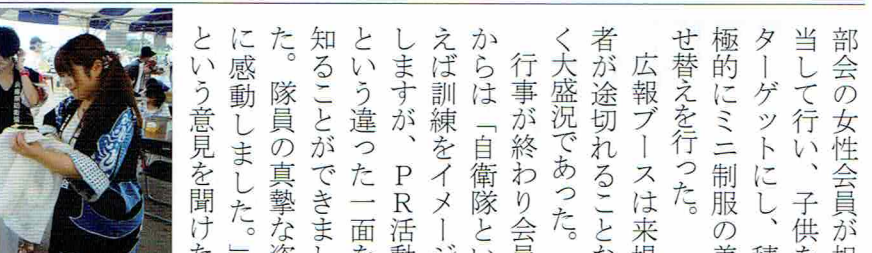
但馬空港フェスティバル

8月31日に行われた但馬空港フェスティバルにおいて兵庫県防衛協会青年部会女性会員2名が兵庫地本の広報ブースを支援した。

但馬空港フェスティバルは、毎年、豊岡市が行っている行事で、但馬空港のPRイベントとして航空機のアクロバット飛行や自衛隊ヘリによる展示飛行などが行われている。自衛隊からは、偵察ヘリ、輸送ヘリ、対戦車ヘリが参加し、多くの観客の前でその勇姿を披露した。

広報ブースでは、「アンケートコーナー」「自衛隊クイズ」「ミニ制服着用コーナー」などを行い、偵察用バイク、指揮通信車などの展示場を設け、装備品をバックに記念撮影するなど自衛隊のPRをすることができた。

特に、「ミニ制服着用コーナー」では、兵庫県防衛協会青年部会の女性会員が担当して行い、子供をターゲットにし、積極的にミニ制服の着せ替えを行った。広報ブースは来場者が途切れることなく大盛況であった。行事が終わり会員からは「自衛隊といえば訓練をイメージしますが、PR活動という違った一面を知ることができました。隊員の真摯な姿に感動しました。」という意見を聞けた。



装備品に興味津々な子供達

子供達にミニ制服を着せる女性会員

兵庫地方協力本部
だより

自衛官募集活動

自衛隊兵庫地方協力本部(本部長・下酔尾芳孝1陸佐)は、8月18日から、神戸市内で自衛官候補生等の募集広報活動を行った。

まず始めに、三宮駅前
の街頭に「募集ブース」
を開設し自衛隊広報を行
った。毎日数名が募集ブ
ースを訪れるものの、な
かなか受験を希望する者
が現れなかった。

そこで次に、
自衛隊の車両1
／2トトラック
(パジエロ)を
フルオープンに
して、マスコッ
ト「ひょうち
ん」を乗せて市
街地を走行し募
集ブースのアピ
ールをした。車
両には「広報ブ
ース開設・三宮



三宮で広報活動

交差点南」と明記した。パ
ネルを取り付け三宮駅周
辺を走ると、遠くから手
を振る家族連れや写真を
撮る若者、時には年配者
から声援もありと予想以
上の大人気。この効果は
すぐに表れ「受験した
い」とブースに若者が訪
れるなど、この後、予想
外の広報活動が始まった。

また、インターネット
上などの「書き込み」に
より、「自衛隊車両が走
つてる。今日の三宮、な
んかスゴイ」といった内
容で、この活動状況が広
まっていた。
兵庫地本は今後も「積
極果敢」な広報活動を行
い、受験者の獲得に努め
ていきたい。

南極の氷講座

兵庫地本は、8月5日
に神戸防災合同庁舎にお
いて、神戸地方気象台主
催の「気象台お天気フェ
ア」を支援した。

イベントでは、気象に
係る観測装置や実験を見
聞きする小学生を中心と
した家族連れで賑わい、
自衛隊コーナーでは、ミ
ニ制服を着用して記念撮
影や南極の氷に触れる体
験コーナーを設置し、ま
た、会場の一角では兵庫
地本の広報班長による南
極の氷講座が開かれ、ス
ライドを活用した説明が
行われた。参加者からは
「南極に毎年日本から越
冬隊が行っていることを
初めて知った。」「夏休み
の自由研究課題にしま
す。」と述べていた。



氷の音を聞く小学生

自衛隊採用試験

兵庫地本は、9月19
日、20日に本部庁舎及
び県内4会場において、
一般候補生採用1次試
験を行った。

採用試験には、高大生
を主体とした合計649名
が受験した。
試験会場が緊張感に包
まれる中、受験者は合格
を目指し、筆記試験、適
性検査、作文に挑んだ。
受験者の中には、受付
を済ませた直後から試験
開始直前まで参考書や資
料を開いて勉強する等、
合格に意欲を見せる者も
多数見られ、真剣に自衛
官を目指している受験者
が多いことが確認できた。
試験を終え、受験者か
らは、「何とか解答する
ことができました」「是
非とも合格したいです」
などの意見を聞き、自衛
隊採用試験の難しさ、
自衛隊への入隊意欲の高
さを感じることができた。
兵庫地本は、「1人でも
多くの良質な入隊者を獲
得する為に、今後も多く
の受験者、適業者の確保
に努めていきたい。」と
している。

自衛隊PR活動

兵庫地本は、10月19
日に淡路ふれあい公園
(南あわじ市)で開催さ
れた「食と文化の市民ま
つり」において車両など
を展示し行事を支援した。
当日は、穏やかに晴れ
渡った秋空のもと、会場
には、約5500名の多
くの来場者で賑わった。
会場においては、広報
ブースを開設し、初披露



自衛官採用試験に挑む受験者

となるミニ制服撮影用の
バックシートを使用し広
報活動を行った。広報ブ
ースでは、展示車両に触
ったり、ミニ制服を着用
し写真を撮ったりと自衛
隊とのふれあいを楽しん
でいた。
「自衛隊の車両を初めて
見ました。」「自衛隊の車
両なのに意外に綺麗でび
つくりしました。」など
装備品に興味を示す中学
生や、ミニ制服を身にま
とった子供たちがイージ
ス艦(みょうこう)やF
-15戦闘機のバックシ
ートの前で記念撮影をす
るなど、自衛隊の広報ブ
ースに花を咲かせていた。
兵庫地本は、「今後も
このような機会を活用し
積極的な広報活動に努め
ていきたい」としている。



バックシートを背景に記念撮影する来場者

防災講話

兵庫地本は、9月18
日に兵庫県立舞子高校環
境防災科の生徒40名に
対し、防災講話を行った。
同校は、全国でも唯一
「環境防災科」を設け、
自然環境や社会環境を視
点に防災、減災を考える
等の教育を行っており、
校外学習として防災訓練
の参加、外部講師として
震災体験者や研究者等を
招く等、特色を活かした
授業が行われている。

今回は講師として渉外
広報室長が約2時間にお
たり東日本大震災におけ
る災害派遣活動等の講話
を行った。講話において
は、「自分の命は自分で
守る」という自助をテー
マに、高校生の立場で防
災について自ら考え行動
できることを具体例をも
ってアドバイスし、生徒
達は貴重な体験談等を聞
き逃すまいと終始筆記し
て真剣に授業を受ける様
子が見られた。
兵庫地本は、「今後、
同校以外でも防災講話を
行つて自衛隊への認識を
深めてもらい、優秀な人
材確保に努めたい。」と
している。